

自動運転が実現する社会の一整理

大野 沙知子¹

¹正会員 名古屋大学特任助教 未来社会創造機構 (〒464-8601名古屋市千種区不老町NIC(609))

E-mail:sachi_ono@coi.nagoya-u.ac.jp

本研究では、自動運転の導入が社会に与える影響を明らかにすることを目的としている。本稿では、専門家および一般に対して、アンケート調査を実施し、現状の理解について整理する。アンケート内容は、(1)自動運転が実現する社会のイメージ、(2)現状からの変化、(3)自動運転で解決できる地域課題についてであり、自動運転が実現する社会を考えるうえで必要な視点と、自動運転の実現が社会に与える影響について議論するための基礎的な整理について示す。

Key Words : *Society with autonomous vehicles, Social receptivity, Questionnaire survey, Interactions between social system and technology*

1. はじめに

自動運転の実用化に向けた技術開発が加速し、実装に向けた課題が議論されている。2017年6月27日に日本学術会議が、自動運転のあるべき将来に向けて-学術界から見た現状理解-と題して提言を公表した¹⁾。ここでは、自動運転の現状を正しく理解すること、交通事故や少子高齢化に寄与するよう技術を活用すること、そのための支援/普及策あるいは社会受容性の検討、そして未来社会のモビリティのあり方について言及している。自動運転の実装による都市空間の変容については、例えばWSP | Parsons Brinckerhoffが、人中心の街並みが形成されることを描いている²⁾。そのために、社会受容性、産学連携、法的枠組みを整備することが必要であると指摘する。また、自動運転と人間の関係について調査も行われており、例えば江間らは、技術の実装には人との対話が必要とし、研究者や一般市民に対してアンケート調査を実施することで、人と技術の関係や発展の方向性を整理している³⁾。この調査では、運転については機械に任せることは受容性が高いが、人よりミスが少なくなることで容認されることが示されている。

本研究の目指すところは、自動運転の導入が社会に与える影響を明らかにすることであり、本稿では、そのための基礎的な整理として、専門家および学生に対して、アンケート調査を実施し、自動運転に対する現状の理解を考察する。

2. 調査

(1) 調査対象

本研究では、専門家と一般に対して調査を行うが、広く自動運転に対する理解を把握するために、特に対象を限定していない。調査票を配布し回答を求めている。専門家に対しては、回答内容をより理解するために、アンケート調査に加え、ヒアリング調査も実施をしている。

(2) 調査項目

設問は6項目とした。質問4の運転をする頻度以外は、自由回答としている。設問の意図を図-1に示すが、将来へのイメージ（質問1：自動運転が実現する社会の想像）、現在からの変化（質問2：現状から変化する事項）、現状と自動運転の関係（質問3：自動運転で解決できる地域課題）を問うている。また、個人の特徴として、運転頻度（質問4）、自動運転に乗りたくないか（質問5）、自動運転が走る街が楽しみか（質問5）を問うた。

(3) 本研究における自動運転の考え方

自動運転にはレベルがあるが、本稿では、レベルを限定せず、回答を求めている。つまり、すべての車が自動運転である場合もあれば、混在する場合もあり、回答の文脈によって解釈することとしている。

3. 結果と考察

結果と考察については、研究発表会時に示す。以下の点を中心に議論を深めることを想定する。

- ・自動運転の社会的な影響
- ・自動運転と新たなサービス
- ・自動運転と地域活性化

4. おわりに

本稿では、一般や専門家にアンケート調査を行い、自動運転が実現する社会を考えるうえで必要な視点と、自動運転の実現が社会に与える影響について議論するための基礎的な整理を行った。自動運転と社会あるいは個人の関係においては、既往研究で指摘されるように、技術と社会の対話、社会的な視点から技術に言及し、技術を社会的に形成する視点が不可欠であり、この調査が、広く自動運転と社会について考えるきっかけになることを期待する。本稿で調査した主体は限られているため、より多くの意見を収集することや、技術の発展に伴う人や社会の変化について観察すること、新たなサービスを創出する視点などを考慮し、研究を行っていくことを今後の課題として記す。

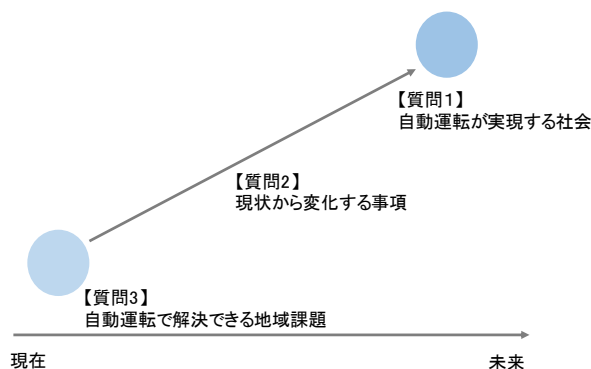


図-1 設問の意図

参考文献

- [1] 日本学術会議 総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会：自動運転のあるべき将来に向けて-学術界から見た現状理解-, <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-23-t246-1.pdf>, 2017年6月27日 (2017年6月30日閲覧)
- [2] WSP | Parsons Brinckerhoff. : MAKING BETTER PLACES: Autonomous vehicles and future , <http://www.wsp-pb.com/Globaln/UK/WSPPB-Farrells-AV-whitepaper.pdf> (2017年6月30日閲覧)
- [3] 江間 有沙他：運転・育児・防災活動，どこまで機械に任せるか：多様なステークホルダーへのアンケート調査，情報管理，Vol.59，No.5，p.322-330，2016.